

全国学力・学習状況調査の結果から見える山元の子

4月に6年生（52名）を対象として実施された全国学力・学習調査の調査結果をお知らせします。

(1) 「教科別学習状況調査」の結果から

	平均正答率	
	国語	算数
山元小	63	64
神奈川県	61	67
全国	63.8	66.6
全国比	▼0.8	▼2.6

平成31年度調査においては、「知識」と「活用」に関する問題を一体的に問う問題形式となりました。また、平成31年度調査では、国語と算数のみの調査対象でした。よって、上記の表が結果となります。

(2) 全国の正解率と比較して結果に特徴のある問題

<p>【国語】</p> <p>正解率の高かった問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。 <p>正解率の低かった問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表やグラフなどを用いた目的をとらえる。 ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫をとらえる。 ・目的に応じて、質問を工夫する。 	<p>【算数】</p> <p>正解率の高かった問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る。 ・2010年の水の使用量は1980年の水の使用量の何倍かを棒グラフから読み取る。 ・資料の特徴や傾向を関連付けて、1人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する。 <p>正解率の低かった問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示されたわり算の式の意味を理解する。 ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する。 ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する。
--	---

(3) 生活習慣・学習習慣の結果から、本校6年生児童の特徴を表していると思われる項目

朝の起床時間や自己有用感、また学習における自己達成感などの多岐にわたる質問が行われた。それらの傾向を全国平均値と比べたところ、「当てはまる」と「ほぼ当てはまる」を選んだ割合が多くの場合、全国平均と並ぶか、もしくは上回っていた。しかし、「当てはまる」だけを取り上げた場合、全国平均を下回る結果となっている。

このことから、本校の児童はおおよそ家庭生活・学校生活において、肯定的に捉えていることがうかがえる。しかし、強くその状態を捉えきれているわけではないことがうかがえる結果となった。

<p>全国の数値と比べ集計値の高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人と学校での出来事について話をする。 ・自分にはよいところがある。 ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 ・学校に行くのは楽しいと思う。 ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。 ・授業で学んだことを、他の学習に生かしている。 	<p>全国の数値と比べ集計値の低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持っている。 ・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。 ・授業でもっとコンピューターなどのICTを活用したいと思う。 ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。 ・算数の授業で難しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。
---	--

(4) 調査全体の結果から

今年度は、「国語」と「算数」の2観点に絞られたため、平成30年度の結果と比較することは難しいが、今年度の正答率は、全国平均に近づくことができた結果となった。国語においては、神奈川県内の平均を上回り、全国平均まで0.8ポイントまで迫っている。しかし、算数においては、まだ県内・全国平均を下回っており、さらなる指導の工夫と努力を要することがうかがえる。

生活実態としては、上記の通り、前向きな家庭生活・学校生活を送っている子どもが多いといえる。しかし、「新たな取組」や「難しいことへの挑戦」という場面でもさらに力を発揮できるよう指導・支援を行っていく必要があると考えられる。